

第5回 企業インタビュー

備後半導体技術推進連合会(BISTEC)

会長 藤代 祥之様・副会長 森下 秀法様・事務局長 羽森 寛様



備後半導体技術推進連合会(BISTEC・ビステック)

備後地域における半導体・電子デバイス製造分野での地域ネットワークの拡充や事業化促進を図ることを目的として1993年に設立されました。

大手企業の技術者などを講師に招いて無料の勉強会を定期的に開催しており、毎回多数の参加者でにぎわっています。また、中学生向けのロボット工作教室などを開き、後進の育成にも力を注いでいます。

ローツェ株式会社
(東証一部上場)
代表取締役社長
藤代 祥之様
Yoshiyuki Fujishiro

株式会社
アドテックプラズマテクノロジー
(東証二部上場)
代表取締役社長
森下 秀法様
Hidenori Morishita

オー・エイチ・ティー株式会社
代表取締役社長(工学博士)
羽森 寛様
Hiroshi Hamori

変化を怖れず、常にチャレンジ

ローツェは半導体産業や液晶工場には欠かせない自動化・搬送用ロボットの大手メーカー。医療分野の自動培養装置やモータ制御機器なども手がけています。「他社のマネをせず、これまで世の中になかったものをつくる」ことが当社の基本姿勢です」と藤代社長。

半導体産業は世界的な規模で拡大を続けており、同社も多くの海外企業と取引しています。「ですからグローバルなスタンスで仕事をする必要があります。変化を怖れず常にチャレンジ精神を持ち続けることも大切。人事面では、できる人、やる気のある人を積極的に応援し、抜擢する社風ができており、藤代社長自身が、入社9年目、35歳にして社長に就任したというキャリアの持ち主。「世界に目を向け、仕事を通じて成長していける人なら大歓迎」と力強く語られています。

プラズマ技術で先端産業を支える

「新卒で入社してくる半分以上の人は能開大・短大の卒業生。ですから両校には親しみと感謝の気持ちがあります」と森下社長。

アドテックプラズマテクノロジーは、半導体産業で重要なプラズマ用高周波電源装置の大手。プラズマ技術が非常に細かい複雑な加工を可能にしました。その応用範囲は広く、将来にも大きな期待が寄せられています。

「能開大・短大の卒業生は仕事一途な方が多いです。仕事や研究に没頭することも必要ですが、視野の狭い真面目すぎるエンジニアになってほくありません。今後は世界的な視野と、後輩の指導やアドバイスができる人間性やメンバーを集約する統率力も必要になります」。多くの可能性を秘めているプラズマ技術の分野。その新しい扉を開く若い力が求められています。

得意分野をどんどん伸ばして…

電子技術の進歩は、常に革新的な商品を生み出しています。新技術、新商品の普及にはさらに高難度の検査内容と方法が求められます。「たかが検査」というなかで、今や「検査」が生産時間の短縮や歩留まり率を左右し、製品コストにも大きく影響するのです。

オー・エイチ・ティーは、プリント基板や液晶パネルの生産現場において「非接触検査」を世界に先駆けて可能にした先端技術企業。「非接触検査は単純な検査も教料成功もない未知の分野。やりがいも大きいですが、いつも成功も失敗もありません。失敗に耐える強い精神力も必要です」と羽森社長。同社では、人材育成や働きやすい職場づくりにも積極的に、「若い人は自分の得意分野にさらに磨きをかけ、どんどん伸ばして、もっと鋭く突っ込んでほしいですね」と期待をよせています。

中国職業能力開発大学校附属福山職業能力開発短期大学校

福山能開短大 News vol. 34



学園祭 & ものづくりフェスタ 開催

10月31日(土)に学生自治会主催の学園祭「姫谷祭」及び小学生・園児を対象とした「ものづくりフェスタ」などが開催されました。

前日の午後、そして当日朝早くから皆一丸となって最終設営をするなど準備し、様々なイベント・模擬店を盛大に行うことができました。イベントやものづくりフェスタ、各クラスは模擬店など、新型コロナウイルス感染症対策をしつつ、皆で楽しむことができました。

自治会役員はこの日のために、長い時間をかけ準備をしてきました。学業に忙しい中、大変ご苦労様でした。いい経験になったと思います。来年も次期役員に今回の経験が引き継がれることを期待します。

イベント内容

- 自治会主催
- 一気飲み大会
 - 仮装大会
 - ピンゴ大会

- ものづくりフェスタ
- 革製おしゃべりキーホルダー(自治会)
 - ジオラマ(自治会)
 - ねじロボットキーホルダー(生産技術科)
 - 光を追いかけるロボット(電気エネルギー制御科)
 - オリジナルランナップシールド(電子情報技術科)



中国職業能力開発大学校附属 福山職業能力開発短期大学校

〒720-0074 広島県福山市北本庄4-8-18
TEL.(084)923-6391/FAX.(084)921-7038
http://www3.jeed.or.jp.nswasp.com/hiroshima/college/

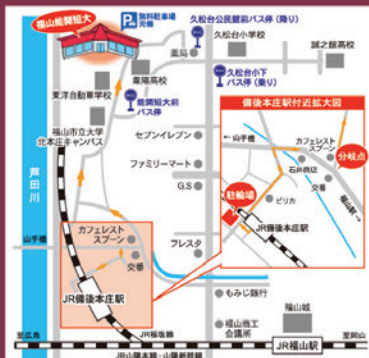


- アクセス
- 山陽本線 福山駅より自転車約15分
 - 福塩線 備後本庄駅より徒歩約15分、自転車約15分
 - タクシー:JR福山駅より約10分
 - バス:JR福山駅 中国バス7番乗り場 向陽循環線(乗車約10分)「久松公民館前」下車徒歩約10分

※備前「久松台小学校下」からの乗車となります。
※バスの本数は「向陽循環線」は毎時1~2本、「本庄循環線」は1日2本程度です。

福山能開短大 検索

アクセスMAP専用QRコード (Google Maps)



学生自治会 顔合わせ



7月29日(水)、大教室で板野校長以下の短大代表と学生自治会執行部との顔合わせが行われ、新執行部の紹介及び校長から激励の言葉がありました。
集合写真の前列右から3人目、会長小林大悟君(生産)、前列右から2人目、副会長の井上莉来さん(生産)、前列左から1人目、同じく副会長の江裡陸生君(電情)を中心に、1年生も加わった強力な布陣となっています。新型コロナウイルス感染症の影響により顔合わせの開催が例年より大幅に遅れましたが、今後の皆さんの活躍を祈念します。

ゼロハンカーに打ち込みつつ自治会長として行事を運営

生産技術科2年 小林大悟君



2月に学生自治会の会長になった。総勢約30人のメンバーを束ね、毎年10月に開催の学園祭「姫谷祭」やオープンキャンパスなど学校行事の運営に携わる。一年生時も自治会のメンバーとして活動、学園祭では会場の設置を担当した。「学科が違う先輩ともつながりができて、充実感があって」と話す。「先輩の後ろ姿を見て、やってみたくて」と会長に。就任早々、新型コロナウイルス感染症拡大で休校となってしまったが5月18日(月)に再開。学園祭に向け準備を始めている。「これまでの伝統を引き継ぐと同時に、新しいことにも挑戦したい」と意気込む。

福山市出身。自動車整備士の父親の影響もあり、「ものづくりに関わりたい」と考えて同校に進学した。旋盤など機械を使った実習をこなしながら、製図の技術や材料についても学び、ものづくりの基本を身に付けた。「学生同士、和気あいあいとした雰囲気。先生も親身になって就職の相談に乗ってくれる」卒業研究にあたる「総合制作」として、自作のボディに50ccのエンジンを搭載した「ゼロハンカー」の開発にも取り組む。三人で組むチームのリーダーとして仲間を引っ張っている。「前年度の先輩たちよりも良い車を作りたい」来年2月に府中市で開催されるレースにも参加予定だ。

学業に加えて自治会長としての活動もあり、多忙な年になりそうだが「貴重な体験」と前向きだ。「勉強もきちんとしながら、自治会をまとめて皆が楽しめる行事を企画運営したい」

※令和2年6月1日(月)発行 Chugokuビジネス情報から転載

福山能開短大での 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の影響により、当校でも4月16日(木)から5月17日(日)まで1か月間の休校を余儀なくされました。再開に当たっては以下のような対策を施し、現在も引き続き警戒を緩めことなく授業などを実施しています。その一部をご紹介します。

- 環境整備における取り組み
 - 校内要所にアルコール消毒や感染防止に係る掲示物の掲示
 - 受付、学生食堂内の座席などの対面する箇所に飛沫防止のためにアクリル板の設置
- 講義(座学・実習)中における取り組み
 - 大きな教室の使用、教室や実習場の入口にアルコール消毒設置
 - 教室・実習場などのこまめな換気の徹底
- 学生・職員等個人が行う基本的取り組み
 - 原則、マスクの着用(咳エチケット)の徹底
 - こまめな手洗い、手の消毒の徹底
 - 通学・通勤前の「体調チェック」の徹底
- その他取り組み
 - 学生向けカウンセラーによる「心のケア」の相談実施



こちらも生産技術科の先生の自作!

生産技術科の先生の自作!

透明なので見えにくいですが、アクリル板が机の上にあります。

アクリル板を当校のレーザー加工機で切断しました。



2020年度 オープン キャンパス開催!

7月26日(日)・8月30日(日)に、高校生の皆さまを対象としたオープンキャンパスを実施しました。当校の特徴の説明、校内見学、学生寮の見学を行い、女子学生については「女子懇談会」を開催し、当校の様々な疑問にお答えしました。次回は12月13日(日)に今年度最後となるオープンキャンパスを実施いたします。お時間ございましたら、ぜひご参加ください!

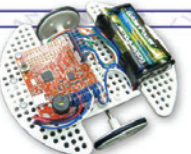


高校の先生対象 見学説明会開催

新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきた6月23日(月)に、高校の進路担当の先生方を対象とした説明会を当校において実施しました。当校の特徴の説明とともに、校内をご見学いただき、最後にご出席の各先生方の出身校の学生と情報交換をしていただきました。当校の学生も先生方とお話ができ、とても有意義な時間になったと思います。

第28回 楽しい電子工作教室

夏休みロボット教室開催!



第28回「楽しい電子工作教室」が8月22日(土)・9月26日(土)の2日に分け、備後半導体技術推進連合会(BISTEC)、福山産業教育振興会、福山市教育委員会の支援の下開催され、備後圏域の合計27名の中学生が集まりました。

今回のロボット教室では、昨年引き続き、紙に書かれた黒い線をなぞって走る「ラインレースロボット」を制作しました。参加者は、工具を使用したロボットの組立から始まりプログラム作成まで、作業ステップ毎に確認しながら熱心に取り組んでいました。完成後は、より早く走るように、プログラムによるスピード調整、時間設定など工夫し、みんな真剣に取り組んでいましたね。参加した中学生からは「最初は思い通りに動かなかったが、走ると楽しかった。プログラミングにも興味が出てきた」「組立は難しかったが、プログラミングした通りにロボットが動いて楽しかった」との声があり、満足していただけののではないかと思います。今回のロボット教室では当校の先生が主として説明・指導を行い、BISTECに所属する社員さん(約10名)が各中学生のサポートに当たりました。担当してくれた皆さん、ご苦労様でした。また、このロボット教室は中国新聞、山陽新聞、読売新聞の各朝刊に掲載されました。今後も引き続き、地元中学生あるいは小学生のものづくり教室を開催していきます。

教室へようこそ 電機メーカー研究職の 経験を生かす

電子情報技術科 竹岡忠士准教授

電子情報技術科で電子系を担当する竹岡忠士准教授は、大手電機メーカーの研究開発職から転身した。長年、半導体レーザーの研究開発に携わっていた経験を生かし、次世代を担う若いエンジニアの育成に力を注ぐ。自身の実体験を基にした授業は、説得力があり、わかりやすいと学生から好評だ。卒業制作では、VR(仮想空間)に対応したアプリの開発やLEDを利用したデジタルサイネージなどに取り組む。「多少難しくても、学生が楽しみながら学ぶことが大事。何も無いところから物を作り出す面白さを知ってもらいたい」

府中市の出身で備後地域への思いも強い。「将来は、授業で学んだ技術を生かしてスキルを磨き、地元企業を盛り上げてほしい。地域に貢献できる存在に」と学生たちに期待する。マイコンやセンサーなどで機器を動かすシステムを構築する電子技術、製造ラインを管理するシステムや、観光や医療の予約サイトなど、社会や産業をソフト面で支える情報技術。電子情報技術科では備後地域でもニーズが高い両方の知識と技術を学ぶことができる。

※令和元年6月16日(日)中国新聞 朝刊から転載

